

長谷川望牧師

- * イエスの群衆に対する最後のことは、今までヨハネが記してきたことの総まとめになっている。先ず、イエス・キリストと父なる神とは一つであること。「わたしを信じる者は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を信じるのです。また、わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのです。」（ヨハネ12：44～45）
- * 「わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、だれも闇の中にとどまることのないようにするためです。」（ヨハネ12：46）私たちはイエス・キリストを知るまでは、みんな闇の中を歩いていた。罪の暗闇の中いる者は自分ではそのことに気が付いていない。光を見て、光に照らされて初めてそれがわかるのである。その光は根源の光、イエス・キリストであり、自分の暗いところ、すなわち罪を照らし出す。その光はまた、その罪を赦し、罪を犯さない正しい道を照らして導いてくださる。そして、私の中に灯った光はこの世の光として働くようにされるのである。
- * 「だれか、わたしのことは聞いてそれを守らない者がいても、わたしはその人をさばきません。わたしが来たのは世をさばくためではなく、世を救うためだからです。」（12：47）2千年前、イエスが来られて、私たちは神のことばとしてイエスのことばを聞くことができるようになった。そして、イエスが地上に居られなくなっても弟子たちがそのことばを伝えていったことが、聖書という形で今も残り、今も私たちは神の言葉に直接接することができるのである。これほどの大きな恵みはない。これからも私たちが神の言葉を伝えていかなければならない。
- * イエスのことばを聞いたものは、信じる者と信じないものに分けられる。また、聞いて信じた者はまたそれを守るものと守らないものに分けられる。しかし、神の目から見れば完全に守ることができる人はひとりもない。それでもさばかない、とイエスは言われるのである。十字架の贖いの故である。
- * 「わたしを拒み、わたしのことばを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。わたしが話したことは、それが、終わりの日にその人をさばきます。」（12：48）イエスのことばを受け入れた者はさばかれないが、イエスのことばを受け入れない者は、イエスが終わりの日にご自身が裁判長となってことばでさばかれ、有罪の判決を受け、永遠に暗闇の中を歩かねばならない。しかし神の願いは、すべての者が永遠のいのちを持ち、光の中にあることである。